

謹而言上之覺

一、南都東大寺者 聖武天皇之御建立ニ而御座候、寺中ニ
号正藏院与御倉ニ、蘭奢待并紅沈両種之名香御座候、
此御倉 勅封ニ而御座候故、為寺中開封仕候儀不罷成候、
就其先規も、足利家公方御代々、被経 奏聞、 勅使参向
ニ而御倉開封有之而、名香御所望之由、旧記ニ有増相
見江申候事

一、織田信長公名香御所望ニ而、 奏聞之上、 勅使日野大納言・
飛鳥井大納言参向ニ而、天正二年甲戌三月廿八日御倉
開封、奉行佐久間右衛門尉・菅屋九右衛門尉・塙九郎左衛門尉・
武井夕庵・松井友閑法印・中坊讚岐法橋、任旧法、壹寸八分
御切取被成候由、旧記ニ相見江申候事

一、家康公御代慶長七年壬寅六月十一日、 勅使烏丸弁参向
ニ而御倉開封、奉行本多上野介・大久保石見守、允長老学光、
名香御所望之由、有増旧記ニ相見江申候、御倉之前ニ
勅使之御殿作事奉行并 勅使御馳走、中坊飛驒守ニ被
仰付候事

右之通ニ御座候間、蘭奢待・紅沈両種之名香、
公方様江被 召上候様ニ与惣寺中願奉存候、此儀疾申
上度奉存候得とも、 御前を憚、唯今迄も延慮^(遠)仕候、右之
御倉久々開不申候間、雨漏・塵等無心許存候間、加様之^(をカ)
御次而□以、御倉之内掃除以下も仕度奉存候、子細之儀者
口上ニ可申上候、以上